



鹿児島県はおもしろい
 鹿児島県はたのしい
 鹿児島県はおいしい
 鹿児島県はあたたかい
 そして
 鹿児島県は不思議のくに

ひつつぶとく

創刊号

発行者
 NPO法人
 かごしま新発見伝塾
 〒891-1231
 鹿児島市小山田町 6980
 Tel 099-238-7282
 Mail info@kagoshima-shinhakken.net
 http://www.kagoshima-shinhakken.net

“はじめまして”の挨拶

拝啓 皆様、お元気でしょうか。平成一十六年もあとわずかとなってしまいましたね。皆様にとって、この一年はどんな年だったでしょうか。

私共は長年歩んで来た観光という道を生かして、NPO法人を設立できた記念すべき第一歩の年でありました。少しでも社会にお役に立ちたいと思い、本年初めから準備を始めて、七月に認証を受けた多くの会員、役員の皆様の「ご支援」によるもので、深く感謝申し上げます。

鹿児島県は他に類例を見ない程に様々な特殊性を持つこの本島におもしろい所です。これらにより多くの皆様方に色々な視点からご紹介して参ります。

特定非営利活動法人かごしま新発見伝塾

理事長 今井 俊子

敬具

NPO法人かごしま新発見伝塾 目的概要

その地域の人でさえ見過ごしているような余り知られていない鹿児島島の自然・歴史・文化・食など埋もれた観光資源を発掘し、多様な魅力を紹介し、地域振興に取組みます

事業

- ①観光資源の発掘に関する事業
 観光資源の発掘事業
 発掘した観光資源を紹介する事業
 知るを楽しむかごしま新発見のバスツアー
- ②街歩きに関する事業
 知るを楽しむ歴おごじよの街歩き
- ③観光に携わる人材育成に関する事業
 観光ガイドの育成事業
 原口教授の野外歴史教室事業
- ④観光アドバイザーに関する事業

認証登記までの経緯

- 2012年10月 任意団体かごしま新発見伝塾設立
- 2014年3月 特定非営利活動法人かごしま新発見伝塾設立總會 即認証申請
- 2014年3月 ホームページ開設
- 2014年6月20日 県、認証
- 2014年7月04日 法務局登記

知るを楽しむバスツアー紀行

「永遠の〇が語る平和への希求」

今井俊子

昭和十六年十二月八日早朝、JOKK（ヤホク）のラジオから 臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを申し上げます。帝国陸海軍は本八日未明、西太平洋において、アメリカイギリス軍と戦闘状態に入れたこと、このニュースが報じられ、日本は未だ経験したことがない暗い戦争へと突入していきました。

今年、この戦争の特攻兵士を描いた「永遠の〇」という映画が作られました。これは百田尚樹のベストセラー小説「永遠の〇」が原作です。

調べてみると、実は真珠湾攻撃を謀議した場所が現在の海上自衛隊鹿屋航空基地内の建物であることがわかり、現存していることがわかりました。

今、日本が平和を享受出来ているのは、特攻兵をはじめ、大戦で亡くなった多くの尊い命の上にある。二度と悲惨な戦争を繰り返してはならない。このことを学ぶために、私共は、基地見学を含めた鹿屋戦跡めぐりバスツアーを計画したのです。大隅半島には未だに数多くの戦跡があり、その中から串良の地下壕の通信司令室跡、特攻平和公園を、そして鹿屋航空基地の特別な計画として、基地内の第一ビルを見学することが出来ました。

開戦前、この一室で、大西瀧次郎参謀長は源田実参

謀に、真珠湾の攻撃は可能かと訊ねたところ、不可能ではないという回答を得て、山本五十六司令長官は開戦を決断しました。私共は現在応接間として使用されている部屋の中に入り、当時の緊迫した空気を肌で感じる事が出来ました。様々なやりとりを重ねたことを思い出しますと、この部屋にすることが奇跡であり、夢のような気がしました。

又、基地内に駐機している「P3C」なども見せていただきました。また、日夜、日本の平和と安全の為に努力している自衛隊の方々の苦勞を目の前にすることができました。基地の方々の多大なご協力に心から感謝いたします。

この後いよいよ「永遠の〇」に出てくるあの丘の上に登ります。

二人の姉弟が自分達の本当の祖父が沖縄の海に飛び立って行った特攻基地を丘の上から眺めるというシーンの場所です。この姉弟は勿論戦争を知らない世代ですが、日本人の多くがそうであるように、この二人も戦争の傷を引きずりながら生きています。

参加者の中には目に涙を浮かべながら、下から吹き上げる風の中に立ちつくしている方もおられました。

来年は終戦から七十年。今を生きる私達が未来を生きる若い世代に引き継いでいくもの、それは「永遠の平和」ではないでしょうか。

このツアーは地元戦跡ガイドの迫さんにご案内頂

きました。感謝です。

通信司令室は特攻兵士の通信を受信する施設でしたが

クタクタ・ツー 駆逐艦に突入す……
セタセタ・ツー 戦艦に突入す……
ホタホタ・ツー 空母に突入す……
ツーというのは信号が途切れた音です。



基地内掩体壕の前で



旧ビル内応接間、会談が行われた部屋



基地が一望できる霧島ヶ丘みはらし台



串良電信司令室地下壕跡

シリーズ 和歌の女性「其の一」

斉彬の母と周子かねこ

このごときまの女性の鑑というより、日本の女性の鑑といつべき女性があります。

斉彬の母親周子つまり賢童院です。

“母は子に乳を吸わせる行為をして、魂を吸わせる”といふドイツの格言があるようですが、周子は正にこれにぴったりの女性でした。

鳥取藩主池田治道の三女として生れ、一八〇七年文化(四)島津斉興と結婚。共に十六才でした。

周子は嫁入り道具の中に本箱と鏡櫃を持参したそうです。沢山の本からは周子の教養の深さが伝わってきます。鏡櫃を持参したのは、島津家は武を尊ぶ国ゆえ、太守様がご不在の時は、私が名代を勤めなければなりません…とこの理由のようです。

一年後の一八〇九年文化(六)斉彬が誕生しました。周子は当時の高貴な女性としては、稀有な考え方を持っていました。自ら子供に授乳し、おむつを替え、手元で育て、躰もみずから教育したので、四、五才になると和漢の本の読み方を教えましたが、斉彬もよくそれに応えて、稱檀は双葉より芳し」と称えられました。幼い斉彬に学問の大切さを教えた和歌が残されています。

光なき石とみなして心もて
磨きあべれば玉となるらん

すると斉彬も返歌で答えました。

古ふるの聖みことの道みちのかしこきを

習あそひて字あはれは朝あした夕ゆふへ

周子は子供達にもそれぞれの立場があり、一男以下や女の子は養子に行ったり、嫁いだりします。それ故、子供の育て方も将来のことを考えた躰を行いました。

又、仏教に深く帰依しており、信仰心が厚く、周りの人々にも心配りの出来る人でした。

夫斉興との間も仲睦まじく、斉興の方が何かと頼って相談したりしていますが、存じませぬ」ということもなく、差し出がましい態度でもなく、側近達の評判も誠に良かったようです。

周子は草むらや目立たぬ所で生きる小さな虫たちを和歌に折り込んだ、三十六歌仙(ほろぎ物語)を作っています。ものあはれを表現したこの和歌は三十四匹の虫たちを擬人化して人生の苦悩、運命を詠嘆したものです。

一いはの心こころ

こころのみ かしのすみすがらつき

身はかずならで 君をいけん

蜂

さおさして いつか渡らな三つ瀬川

はぢすの舟のりを求め

聡明で慈悲深い周子でしたが、一八二四年 文政七(三十三)才という若さで亡くなりました。斉彬は十五才でした。

周子が若くして死ななければ、後の島津家を揺るがした“お由羅騒動”が果たして起きたかどうか。周子が亡くなる前に斉彬に遺した言葉は

慈眼返照す回向の日 誤って父母の名を穢すな
かれ」でした。

参考文獻 鮫島志芽太著
島津斉彬の全書



右端、周子の墓、2基は孫の墓



右、斉彬の墓、左、英姫の墓



斉彬の書
(写)

これまでの活動実績

本年3月、設立総会以降の活動の主なものを挙げてみました。会員の皆様をはじめご参加頂きました方々に感謝です。

街歩き(街歩きに関する事業)

- 平成26年3月 3回 徳川家と島津家を結んだ姫君のひな道具展と曲水の庭巡り
- 平成26年4月 3回 壮観、圧巻！島津家菩提寺福昌寺跡を訪ねる。
- 平成26年5月 3回 西洋から東洋へ、魂の伝道師聖フランシスコ・ザビエル
- 平成26年6月 3回 天文館から納屋ん馬場アーケード探訪
- 平成26年7月19日 バックヤードで知る文化の殿堂・山形屋めぐり
- 平成26年8月28日 バックヤードで知る山形屋の真髄・2
- 平成26年9月 3回 9月は西郷さあを偲んで街歩き 西郷隆夫さんと一緒に
- 平成26年10月 3回 サツマスチューデント ロンドンへ いざ出発！
- 平成26年11月 3回 おお！素晴らしい。磯山からの借景庭園

知るを楽しむバスツアー(観光資源の発掘に関する事業)

- 平成26年6月30日 志布志の夏は・・艦と歴史と夏越しの祭りだぁ！
- 平成26年10月10日 「永遠の0」が語る恒久平和への希求、鹿屋戦跡めぐり
- 平成26年11月30日 薩摩の要・出水兵児魂と甘〜いみかん狩り

原口教授の野外歴史教室(観光に携わる人材育成に関する事業)

- 平成26年12月6日 戦場の武将・義弘とよき家庭人・義弘 飯野(えびの)編

グランドマスター・フィールドワーク(観光アドバイザーに関する事業)

- 平成26年3月15日 山川街歩きと地球の鼓動体験
- 平成26年9月27日 ”志布志”黒潮文化と都の文化が華開く街

編集後記

全くの素人の素人が手掛けたのは間違いでした。構成、挿入、稚拙なのは大目に見て下さい。でもやっと創刊です。記事も殆ど理事長に書かせて単調なものになってしまいました。2号はできるだけ面白い紙面になるよう努力します。会員の皆様からの「ご意見やエッセー 紀行記など投稿もお待ちしております。お待ちしております。

編集責任者 今井征男



街歩き 長沢島の生誕地



飯野城跡からえびのの市一帯を望む